

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史科／歴史総合】

#### 1. 対象（1年1組 在籍35人）

誰が相手でもペア活動やグループ活動に積極的に取り組むことができる活発な集団である。中学校社会科学歴史分野の既習事項がしっかりと定着している生徒が多い。これまでの大項目A「歴史の扉」、B「近代化と私たち」の学習を通して、事象を因果関係に着目して考察する資質・能力、世界規模や現在とのつながりなどより広い視点で捉える資質・能力が身に付いてきている。課題を追究するために、有用な情報を収集して読み取る技術、読み取って考察した内容を自分の言葉で分かりやすく表現する技術を身に付けることが今後の課題である。

#### 2. 単元名 「第一次世界大戦と国際社会」（全5時間）

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

<b>知識及び技能</b>	第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。
<b>思考力、判断力、表現力等</b>	第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。
<b>学びに向かう力、人間性等</b>	第一次世界大戦とその後の国際協調体制について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。

#### 4. 本時の目標

- ①第一次世界大戦の背景、展開、結果と影響を理解する。（知識及び技能）
- ②第一次世界大戦に関する諸資料を多面的・多角的に活用し、考察したことを自分の言葉で表現する。（思考力・判断力・表現力等）

#### 5. 授業展開【 本時 】

<b>解決したい課題や問い</b>
第一次世界大戦はどのようにして「世界大戦」になったのか？

考えるための材料			
資料①列強の同盟関係 ・三国同盟vs三国協商 ・サライエヴォ事件	資料②戦術の変化 ・塹壕戦 ・新兵器の導入	資料③国民の生活 ・女性の労働、動員 ・総力戦	資料④植民地の人々 ・植民地からの動員 ・戦後自治の期待
想定される活動			
地図に書き込みをしながら、複雑な外交関係を背景に、局地的な出来事が世界全体を覆う大戦に発展したことを理解する。	資料から、塹壕によって戦線が膠着し、新しい兵器が次々に開発導入されて犠牲者が増大したことに気付く。	資料から、第一次世界大戦が国民生活全体を戦争に動員する総力戦であったことを理解する。	資料から、植民地から多くの動員があったこと、植民地の人々は戦後の自治を期待しての参戦であったことに気付く。

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

### 対話の方法

#### ◎導入【一斉→個人】（5分）

- 【一斉】 グラフを読み取り、第一次世界大戦の犠牲者数が飛び抜けていることに気付く。  
→ 本時の課題「第一次世界大戦はなぜ「世界大戦」になったのか？」
- 【個人】 本時の問いに対する授業前の意見をワークシートに記入する。

#### ◎展開【一斉／個人／ペア】（35分）

資料①	【一斉】説明を聞きながら国際関係図を完成させる。
資料②	【一斉】塹壕の写真をもとに第一次世界大戦の戦術の変化を理解する。 【個人】新兵器に関する教科書の記述を基にワークシートを記入する。
資料③	【個人】ポスター、写真から戦争が国民に求めたことを考察しワークシートに記入する。 【ペア】考察したことを共有する。 【一斉】総力戦について理解する。
資料④	【個人】資料からインド人が戦争に参加した理由を考察しワークシートに記入する。 【ペア】考察したことを共有する。

#### ◎まとめ【個人／ペア】（10分）

- 【個人】本時の問いに対する自分の考えを文章にまとめ、ワークシートに記入する。
- 【ペア】ペアの表現を基に自分の表現を深化させる。
- 【個人】本時のふりかえり(学んだこと、疑問点)をワークシートに記入する。

### 対話や思考のプロセス

#### ◎導入

- 「他の戦争と比べて第一次世界大戦だけ犠牲者がものすごく多い」
- 「たくさんの国が参加したから」「世界を巻き込む大きな戦争だったから」

#### ◎展開

資料①	「同盟関係などで芋づる式に参戦国が増えた」「日本も参戦した」
資料②	「塹壕で睨み合ったままなら長期化するな」「こんなにたくさんの新兵器が開発されたら犠牲者も増えるな」
資料③	「戦場にはない女性や子どもも戦争に協力した」「生活の全てを戦争のために捧げた」
資料④	「戦後の自治を要求したくて協力した」

#### ◎まとめ

「帝国主義の同盟関係から参戦国が芋づる式に拡大した」「新兵器の導入で膠着した戦線に対応するため国民生活の全てを戦争に充てる総力戦となった」「植民地からの動員もされて世界各地から兵士が集まった」

## 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- 2カ国の衝突だったものが、同盟関係から芋づる式に参戦国が拡大し、世界規模の大きな戦争になった。さらに、新兵器の導入で膠着した戦線に対応するため、戦場にはない一般市民にも全面的な戦争協力を求める総力戦となり、植民地からの動員もされて、世界各地のあらゆる人を巻き込んだ「世界大戦」になった。
- △ 世界中のたくさんの国が参加した戦争だから。世界中のたくさんの人が協力した戦争だから。